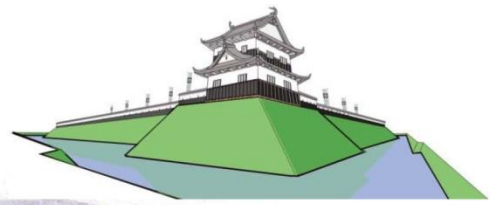




黒野城と

加藤貞泰公研究会



黒野城下町水彩画（絵：平井昭彦氏）

会報

甦る! 黒野城

2019.04 vol. 7

「古城の里に 春を呼び・・・」と、私たちのふるさと黒野の賛歌『あゝ黒野城下町』が誕生しました。この歌が「みんなで歌おう・みんなで聞こう♪」と末永く歌い続けられることを願っています。

慶長5年（1600）の関ヶ原合戦における美濃武将のひとり、黒野城主加藤左衛門尉貞泰の動向は、一般には無名で殆ど知られていません。関ヶ原合戦までの加藤貞泰の活躍を題材にした紙芝居『関ヶ原』を制作し各地で紹介中です。



あゝ黒野城下町

一 古城の里に 春を呼び

若き城主の 面影を

蛇の目の紋に 誇りもち

心を結び 時を越え

住み良い暮らし めざす町

あゝ 故郷の城下町

二 鶺鴒の里に 御望の山

古き説話の 小川市

黒野の歴史 誇りもち

ホタル飛び交う 板屋川

豊かな自然 守る町

あゝ 故郷の城下町

三 黄金の里に 伊自良川

芭蕉・寸木 句碑たずね

築きし文化 誇りもち

学びの園に 夢託す

明日に向かって 歩む町

あゝ 故郷の城下町

賛歌「あゝ黒野城下町」発表会開催

1月26日、小雪が舞う中、賛歌「あゝ黒野城下町」の発表会を黒野会館にて岐阜市や地域の代表者、市民ら約150名が参加して開催しました。賛歌は1年前から企画し、研究会の制作委員会のメンバー9名で作詞、作曲は地元下鶴飼の大沼智幸さん、歌手は黒野小校長深尾雅人さんと声楽家矢嶋倫子さんが12月に録音し、CDを製作。柴橋岐阜市長や信田市議会議長のメッセージ、西垣薫連合会会長のあいさつ等があり、白寿会あすなろコーラス部のバックコーラスで賛歌を初披露。感謝状を贈呈し、大沼先生と高井宏康新日本ガス(株)会長のあいさつ。最後に全員で合唱。今後、多くの市民に普及し、未永く歌い続けられることを願い、歌詞やCDを全員に配布しました。

《当日及びCDを聞いた感想より》

- ・「歌の最後“あゝ故郷の城下町”の繰り返しに感動し涙が出ました。素晴らしい曲です」
- ・「昭和の香りがするメロディーで、なんとなく懐かしさを覚えます」
- ・「ふるさとの哀愁と軽いメロディーで、くちずさみ易くなかなかの作品」



発表会の模様



賛歌CD (カラオケ付)



すばらしい歌声で熱唱

紙芝居第4作「関ヶ原」制作・上演

戦国乱世最大のドラマ、関ヶ原合戦を題材にした「黒野城主 加藤貞泰と関ヶ原」の紙芝居(第1部・2部)を昨年の8月に制作し、各地で上演活動中です。

戦国武将 加藤左衛門尉貞泰は、黒野城を築城して入城2年後の慶長5年(1600)に関ヶ原合戦が起こりました。前哨戦において、西軍の前線である犬山城に竹中重門らと加勢に入りましたが、西軍の犬山城加勢衆を東軍に味方するよう説得し、開城への働きをしました。これらは徳川方との手紙から判明しました。通説では犬山城に加勢・籠城し、岐阜城が落城したので加勢衆は徳川に寝返ったと言われてきましたが間違いです。実際は加勢衆が岐阜城の落城を早め、関ヶ原へと進んでいったこととなります。また現在、国史犬山城があるのは、貞泰の無血開城尽力のお陰だとも思っています。

また関ヶ原合戦の本戦において、多くの書籍や屏風絵などには残念ながら貞泰の名が見られませんが、古い絵図や史料の中には、丸山烽火場に黒田長政・竹中重門と共に加藤貞泰の名が見られます。

研究会では、貞泰をもっと知ってもらおうと、なるべく史料に基づき、絵物語として創作しました。またこれを冊子にした「紙芝居 黒野城主 加藤貞泰と関ヶ原」を発行し、普及活動を続けています。



12/23メディアコスモス
フムドキワイワイにて

関ヶ原古戦場岡山烽火場に立つ
「蛇の目紋幟」



関ヶ原冊子発行



10/23西部コミュニティセンター
黒野白寿会連合会で上演

「則武輪中跡・尉殿堤(じょうどのつつみ)跡」 岐阜市史跡に

岐阜市は長良川治水の歴史を伝える「則武輪中跡・尉殿堤跡」を平成30年(2018)8月、市文化財に指定しました。長良川が3本に分かれて流れていた慶長13年(1606)に、黒野城主加藤貞泰によって築かれた尉殿堤と、18世紀中頃以前に尉殿堤から西方に延長して築かれた則武輪中堤が該当します。

尉殿堤は、加藤貞泰が洪水から則武や鷺山地域など川北の領民を守る為に築き、江戸時代にも修復されて領民から尉殿堤と名付けられてきましたが、昭和14年(1939)の工事で現在の川筋に一本化し、堤は役目を終えました。河川跡には運動競技場施設や中学校、高校、住宅が建てられ今日に至っています。今まで則武の天神社の南東に設置されていた「尉殿堤記念碑」が今年4月に天神社内に移設し、案内板が設置され除幕式が行われます。



則武 天神社



移設した尉殿堤記念碑



案内板

竹中半兵衛顕彰会と交流会

その1 加藤光泰 命の恩人竹中半兵衛・嫡男重門に娘を嫁がせる

昨年の秋から垂井町岩手の竹中半兵衛顕彰会などの皆さんと交流を始めました。半兵衛の嫡男重門の正室に加藤貞泰の姉が嫁いだ縁があり、情報交換などを行っています。竹中半兵衛重治(1544~1579)と加藤遠江守光泰(1537~1593)は、光泰が半兵衛より7才年上。共に美濃出身の武将として戦国時代、斉藤に仕え豊臣秀吉の家臣となつてからも、多くの戦場で行動を共にしてきた盟友の間柄であったようです。

「元亀2年(1571)9月、江州浅井長政・越前朝倉義景との小谷城攻めでは、信長の命で秀吉が江州横山の砦を守備する。光泰もその一人。秀吉岐阜に赴き留守のとき、浅井勢一千余騎不意に城を攻める。竹中半兵衛、城の留守として皆々城の内に引き入り城を守る。光泰一人槍を取り進み出て力戦する。敵数十人これを囲む。中にも浅井の野一色助七と太刀討ちにて挑み大疵を蒙る。左の膝口痛手(重傷)になり、既に危うく見えしとき、竹中半兵衛、門を開き助け戦に依つて敵引取、光泰死を遁れる。光泰手負いたるを見て、家人寺嶋戸一郎勝正の肩に掛けて帰る。これより光泰歩行常ならず、小脚跛(ちんぱ)になると云う。(加藤家文書「北籐禄」光泰之伝上より)」

光泰にとって半兵衛は命の恩人。8年後の天正7年(1579)、半兵衛が播磨三木城攻めの陣中にて病死で没しました。享年36才、半兵衛の嫡男重門は7才のときであります。(貞泰はこの翌年の天正8年に生まれる)

戦場での二人には絆が生まれたのでしょうか。その後、重門の妻に光泰の二女(貞泰姉)が嫁ぎました。重門が元服の天正16年(1588)に家督を相続し従五位下・丹後守に叙位・任官するとき、またはそれ以前に結婚したものと思われる。

研究会の活動報告(2018.04 ~ 2019.03)



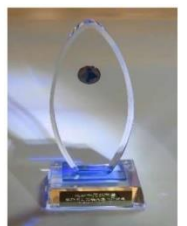
5/22 犬山「城とまちミュージアム」
覧主任学芸員の説明



史跡への道案内板設置



10/1 岐阜市市民画賞受賞



12/5,1/8 垂井町岩手の皆さんとの交流会



10/27~28 会館まつり 柴橋市長来場



3/6 ふるさと検定表彰式と新タイプ蛇目紋幟

研究会の活動報告 (続き)



3.13 賛歌紹介
(JAぎふ黒野支店年金友の会感謝の集い)

6.16 黒野探訪
折立・共和町・三ツ又・黒野めぐり



11.20 黒野小6年生フィールドワーク

平成30年度の主な研究会活動

研 究	研究会の会合	活動報告・計画・研究発表。会場は黒野会館などで隔月開催
	調査研究	郷土古文書調査 黒野城主の事績・ルーツ・鶴飼発祥の地など
	外部団体との交流 見学会	方県・木田・山県・岐阜市・関ヶ原町役場・垂井町岩手・東海古城研究会・北方 犬山城と城下町「城とまちミュージアム」、米野の戦い跡など見学会
地域おこし まちづくり	新規事業	紙芝居第4作目「黒野城主加藤貞泰と関ヶ原」制作・冊子発行 賛歌「あゝ黒野 城下町」企画・制作・発表会 賛歌の普及活動「各地の集会場でCDを流して曲紹介」 新タイプ「蛇の目紋織」の製作
	子供支援	黒野小社会教育「フィールドワーク：黒野城下町案内」(6年生対象) 黒野小「ふるさと黒野検定子ども版」(4・5・6年生対象)
	史跡案内	豊田中日文化センター一行 黒野まち協・黒野歴史探訪「折立・共和町・三ツ又・黒野めぐり」 長良川おんぱく2018 「黒野城と城下町&富有柿ざんまい」
	講演	方県老人クラブ連合会「黒野城と方県の城」 会館歴史講座 紙芝居「関ヶ原」発表会、「関ヶ原の真相」講演 黒野白寿連合会 紙芝居「関ヶ原」と講話 古町昭生会、古市場未来会 紙芝居「関ヶ原」上演 メディアコスモス テニテオ イルミナード 紙芝居「関ヶ原」上演 JAぎふ黒野支店 年金友の会 「賛歌紹介」
	展示	会館まつり・校区文化祭・西部コミセンロビー・城跡「黒野城情報板」
	美化活動	史跡ゴミ拾い・草刈り
	広報	ホームページの編集・維持管理(フェイスブック) 史跡案内板・道案内板設置・旗立て 武持隊活動(イベント参加) パンフレット・リーフレット発行

平成30年度 ご寄付頂いた事業者など (敬称略・順不同)

新日本ガス株式会社 / 西本整形外科リハビリクリニック / 福富医院 / 貴久家 / 黒野病院 / 友・とびあ
株式会社杉山興業 / みながわクリニック / 立山クリニック / 久世工業株式会社 / 丸幸製菓株式会社
ヨツハシ株式会社 / 西村歯科医院 / 戸川新聞店 / 手打ちめん処堀川 / 日本いぶし瓦株式会社
岐阜大学前不動産 / 岐阜電話施設株式会社 / 杉浦紙工株式会社 / 黒野金融懇話会 (5社)

会報 『甦る！黒野城』 Vol.7

発 行 者 : 黒野城と加藤貞泰公研究会
 発 行 年 月 : 平成31年4月(2019)
 編 集 者 : 篠田哲郎・河口耕三・戸川文男
 問合せ・連絡先 : ホームページ facebook.com/kuronojyo TEL 090-1786-6564 河口耕三